

# News Letter

## 地域の果物を活用した特産品の開発 ～瀬戸農産物加工企業組合～

農山漁村の活性化のため、農林漁業者が農産物の生産・加工・販売を一体的に行い、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を行う6次産業化の取組が各地で行われています。

### 農業生産者が中心となった農産物加工組合を設立

岡山県岡山市の東部に位置する瀬戸地域は、晴天の日が多く、温暖な気候と風土が特徴で、桃やぶどう、柿の栽培が盛んに行われています。

同地区では、収穫されない柿や、果実に傷が付いて商品価値が低下し生果として出荷できない規格外品を有効利用する目的で、平成16年に組合員68名、そのうち60名が農業生産者である「瀬戸農産物加工企業組合」を設立しました。



瀬戸農産物加工企業組合

### これまでに開発した商品は50種類

商品開発はフルーツゼリーから始まり、フルーツカレー、ドレッシング、ジャム等の商品を次々に開発し、展示会への出品や商談で販路の拡大を行い、現在では50種類の加工品を製造しています。

同組合は、平成23年に六次産業化・地産地消費に基づく総合化事業計画の認定を受け、平成24年度から、研究機関が新しい技術として開発したコンサーブ製法技術を活用した清水白桃とピオーネのコンサーブ（シロップ漬け）の製造に取り組み始めました。

この製法は、食べ頃の完熟した果実を皮付きのまま加工するもので、従来より低温で殺菌するため、果実特有の風味や食感が残り、変色も少なく、15ヶ月間の保存が可能となります。



太秋柿とピオーネのゼリー

### 年間6万本を出荷するコンサーブ

清水白桃とピオーネのコンサーブを東京の小売業者の担当者が試食し、好評価を得たことが契機となり、昨年はお中元やお歳暮など贈答用として年間6万本を出荷する人気商品となりました。

同組合は、「原料の確保や保管場所、殺菌処理に掛かる手間など苦労する点が多いが、今後も、消費者ニーズの変化に合わせた商品開発に取り組んでいきたい。」としており、今後のさらなる活躍が期待されます。



清水白桃のコンサーブ



ピオーネのコンサーブ

## 「一日農政局 in 上島町」を開催 ～岩城島を中心とした農業・農村振興～

中国四国農政局は8月5日、愛媛県上島町において、「岩城島を中心とした農業・農村振興」をテーマに「一日農政局in上島町」を開催し、農業者、加工・販売業者、上島町、愛媛県及び農政局次長ほか局担当者等約30名が出席しました。

会議の冒頭、上島町から農業の現状と課題について報告があり、続いて、柑橘や野菜を栽培する農業者や農産物を加工・販売する経営者から将来の経営展望や課題が示されました。

その後、「農業生産基盤の強化に向けて」、「農産物の高付加価値化と地域の活力向上について」の2部に分けて意見交換を行い、「新規就農や規模拡大を進めるためには、耕作放棄地等農地を紹介してくれる窓口を作りたい」、「就農者のための住宅を確保したい」、「岩城産としてのブランド化が必要」等の意見が出されました。

最後に月山局次長が「農産物のブランド化については地理的表示法も活用しながら推進していただきたい。これを契機に局としても県、町と連携して意欲ある取組を支援していきたい」と締め括り閉会しました。



意見交換会の様子

## 「米粉料理講習会」を開催

8月1日、岡山市内で中国四国米粉食品普及推進協議会及び中国四国農政局主催の「米粉料理教室」が開催されました。

当講習会は、学校給食や家庭料理における米粉の需要拡大を目的に開催したもので、栄養教諭、栄養士等の給食関係者及び料理講習会等で指導的立場にある者など32名が受講しました。



完成した料理

講習会では、食に関する活動を広く行っている有限会社シンクネクスト代表による

「米粉の活用と調理のコツ」と題した講義の後、米粉を使った5種類の料理のデモンストラーションや「豆腐ステーキのきのこあんかけ」、「かぼちゃのニョッキ」の調理実習を行いました。

受講者から、「米粉の特徴がわかった」「米粉料理教室をもっと開催してもらいたい。」等の意見が出されました。



調理実習の様子



平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。

農林業経営体調査（平成26年12月中旬～平成27年2月末）

農山村地域調査（平成27年4～6月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>